

国語科事例Ⅰ [知識及び技能]と[思考力,判断力,表現力等]との関連を図った実践事例

「あの日の自分」の物語を書こう

～表現の効果を考えて描写する～

第2学年 [知識及び技能](1)エ [思考力,判断力,表現力等]B書くこと(1)ウ 言語活動例 B(2)

1 単元の目標

- (1) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能](1)エ
- (2) 表現の効果を考えて描写して、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
[思考力,判断力,表現力等]B(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力,人間性等」

2 教材名 表現のしかたを工夫して書こう (光村図書 2年)

3 生徒の実態(略)

4 指導の内容と言語活動,教材のかかわり



ポイント①

魅力ある言語活動を設定する

(1) 言語活動設定の意図

本単元では、日常の出来事から題材を見つけ、「物語」として創作する言語活動を設定する。級友たちの、それぞれの「物語」を交流することを通して、表現の面白さ、多様さに気づき、さらに豊かな言語生活につなげたい。

【5つの言語意識】

目的意識	自分の考えをよりよく伝えるために
相手意識	読み手(級友)に対して
場面状況意識	日常生活の中で心が動いたことを「物語」として創作する場面で
方法意識	表現の効果を考えて描写を工夫することを通して
評価意識	より効果的な語句や表現を選んで描写することができたか

(2) 教材の特徴

自分を主人公にした物語を創作するためには、自分を客観的に見つめ直す必要が生まれる。自らを客観的に見つめ直し、「物語」として語ることで、自分の意識や心情がどのように変化したのかを、描写を工夫して表現していく。今回はあくまでも「物語」として自身の体験を語る学習課題であるため、実際の事実と多少異なる箇所があっても構わないものとする。自身の心情の動きを捉え直し、「物語」として効果的な描写を考え、より読み手のイメージがふくらむ表現や言葉を、繰り返し吟味したり、問い直したりする機会としたい。また、既習の表現技法を使って書くことで、「読むこと」への理解も同時に深まる効果も期待できると考える。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(I)エ)	①「書くこと」において、表現の効果を考えて描写して、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 (B(I)ウ)	①粘り強く表現の効果を考えて描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。

ポイント 2

評価場面を精選する

6 指導と評価の計画 (B「書くこと」30 時間中の5時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○日常生活や行事を振り返り、物語の題材にしたい出来事を選ぶ。出来事は詳しく思い出し、メモに書き留める。 ○物語の山場を意識し、あらすじを考える。	・日常生活や行事を題材に、400字程度の物語を創作することを知らせる。 ・既習の表現技法を振り返り、読み手が、場面や人物の気持ちや様子を想像できるような描写を考えさせる。 ・「どのような出来事がきっかけで自分の心がどのように動いたのか」ということが読み手に伝わるよう、おおまかな物語の流れを考えさせる。	
3 ・ 4	○描写を工夫して物語を書く。 ○物語を読み合い、意見や感想を交流する。(本時)	・教科書で提示されている、描写のポイントを観点別に理解させ、これを踏まえて記述していくよう確認する。 ・類語辞典や国語辞典、便覧等を使いながら、語句の微妙な違いを理解した上で表現を工夫するよう指導する。 ・交流に生かせるように、工夫した表現とその効果を具体的に記入させる。また指導者が確認し、個別の指導に生かすようにする。 ・お互いの表現の良いところと改善点を交流し、推敲の手立てにつなげるよう指導する。	[知識・技能]① ワークシート・物語 ・ここでは、類語辞典等を使い、複数の言葉の意味の差異を理解しているかどうかを確認する。 [主体的に学習に取り組む態度]① 観察・ワークシート ・ここでは、助言を踏まえ、見通しをもって描写を工夫しようとしているかを確認する。
	<p>話合いの中で話題となると予想される表現の工夫</p> <p>◎場面がよく分かる。・状況が分かりやすく書けている。</p> <p>◎人物の気持ちがよく分かる。</p> <p>・感情を表す言葉の工夫 ・行動の様子を表す言葉の工夫</p> <p>・情景の表し方の工夫 ・比喻表現等の技法を使用している。</p>		
		<p>← 物語の交流の場面</p> <p>ここでは、物語の交流を通して語句の差異や技法の効果的な用法について考え、友人の意見を基に次時に向けて工夫点を見いだしているかを見取る。</p> <p>交流をして終わりではなく、次時の推敲に向けて、見通しをもって描写の工夫を考えさせる。</p>	

5	<p>○前時までの見通しを基に、推敲する。</p> <p>○最初に書いた物語と、推敲した物語とを読み比べて、良くなったと思う箇所を示し、その理由を、描写の工夫や言葉の選出の観点から振り返る。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<p>・友達の作品やアドバイスを参考に、推敲するよう指導するが、助言をそのまま反映する必要はなく、より自分の感じたことが表現できる語句や技法を選択するよう伝える。</p> <p>・類語辞典や国語辞典、便覧等を使いながら、語句の微妙な違いを理解した上で表現を見直すよう指導する。</p> <p>・交流を通して推敲した箇所や、自身で試行錯誤した箇所が、推敲する前と後でどのような印象の違いが生まれていると思うか、具体的に記入するよう指導する。</p> <p>・効果的な描写について、自分なりの考えを持ち、今後の読むことや書くことへの学習にどのように生かせるかを考えさせる。</p>	<p>[思考・判断・表現]① ワークシート・物語</p> <p>・ここでは、表現の効果を考えて描写を工夫し、自分の考えが伝わる文章になっているかを確認する。</p>
---	---	--	--

7 本時の指導(略)

8 評価の実際



ポイント3

生徒の具体的な姿を想定する

(1) [知識・技能]の評価

[知識・技能]①について、「類語辞典等を使い、複数の言葉の意味の差異を理解し、言葉を適切に選択している」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と想定し、第3時に評価した。

類語辞典や国語辞典等を自由に使用できるように準備して、物語の下書きを記述する活動を行った。例えば、右の生徒の作品のように「部長になってよかったと思えた。」と記述していた生徒は、その時の気持ちをもっとわかりやすくしたいと考え、類語辞典で言葉を調べ、「不安だった気持ちが一気に晴れがましい気分変わった。」という表現を用いているので、「おおむね満足できる」状況と判断した。

また、「十分満足できる」状況(A)の評価は、最終的に清書を終えて「適切な語句の選択」、「巧みさ」、「創造性」、「他者への助言」等を基に判断した。

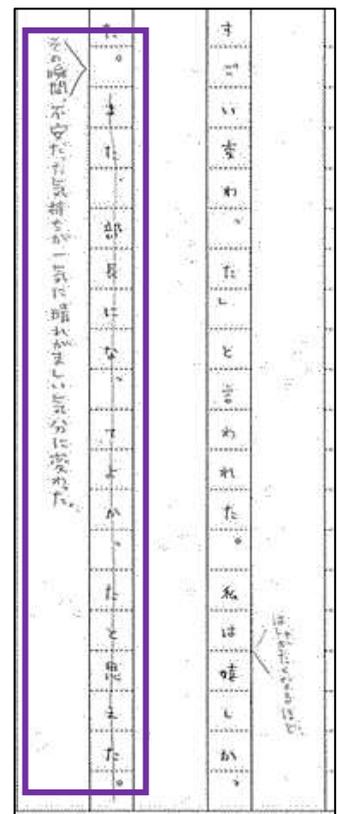
「努力を要する」状況(C)と判断した生徒に対しては、これまで読んできた教材を基に、描写の観点を振り返らせたり、具体的な表現や言葉を例示して実際に調べさせたりするなど、言葉の微妙な差異に着目させるように指導した。

(2) [思考・判断・表現]の評価

[思考・判断・表現]①について、「前時までの学習を踏まえ、表現の効果を考え、描写して、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している」姿を「おおむね満足できる」状況(B)と想定し、第5時に評価した。

前時の交流を踏まえ、下書きを推敲し、清書を書く活動を行ったが、本時の目標は記述である。前時の交流のねらいは、仲間の物語を読んだり、仲間の助言を聞くことにより、自分が表現しようとしていた思いや情景が読み手にどのように伝わっているかを確認したり、自分の表現の意図を明確にしたりして、自分の表現を客観的に捉え直すことである。それにより、表現の効果について、しっかりと考えることができると考えた。

例えば、ある生徒の作品では、作品の最後を「窓の外から見えた空の色はうす暗かった。」という一文で終えていた。ワークシートにその効果について、「自分の暗い気持ちを情景描写で表現した。情景描写を使うことで、そ



の場のイメージがしやすく、登場人物の気持ちも伝わりやすい。より具体的に書いた方がイメージしやすい。」と記述していた。また、そのとなりに、「情景描写があるだけではなしのおもしろさが変わる。」と友達の助言を記述している。このような姿から「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

また、「十分満足できる」状況(A)の評価は、部分だけでなく、作品全体との関わりの中でどのような表現の工夫をしているかを見取った。

例えば、右の生徒の作品は、暗くなる通学路を不安な気持ちで歩く心情が、情景描写を用いてよく表現されていて、心情の変化の描写をしっかりと踏まえた上で、作品全体を構成している。また、振り返りワークシートに「情景描写や比喩をほどよく使うのが難しかった。使いすぎてもいけないし、使わないとつまらない文章になってしまうので、そのバランスが大切だと考えた。」とあり、表現の効果を踏まえ、ストーリーの進行と描写の工夫とのバランスを考えているので、「十分満足できる」状況であると判断した。

例えば、「事実→思ったこと→事実→思ったこと」のような説明的な書き方だったり、使用する語句が平易で、他の表現との比較や表現の工夫が見られなかったりする場合、「努力を要する」状況(C)と判断した。このような生徒は、構成の段階で場面の設定がうまくできず、描写したい心情の変化が自分の中で焦点化できていないので、書こうとする場面の心情の変化を整理させたり、「読むこと」の学習を振り返らせ、心情の変化が読み取れる描写に注目させたり、表現の効果をもう一度考えさせたりして段階的に指導を行った。

氏名	振り返りシート	氏名	振り返りシート	氏名	振り返りシート
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村		佐藤	
鈴木		高橋		鈴木	
山田		佐藤		鈴木	
田中		高橋		渡辺	
山本		中村		山崎	
佐々木		木村			